

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

(国際交流・協力コース)

項目	国際交流・協力	対象学年	3年	場所	カレッジホール
テーマ	グローバル化と賃金・雇用				
講師	神戸大学大学院経済学研究科教授 中西 訓嗣				
<p>講義内容</p> <p>自由貿易協定(FTA)や経済連携協定(EPA)の締結などを通じた貿易自由化や多国籍企業の活動による国際生産ネットワークの拡大・深化などの「経済のグローバル化」と呼ばれる現象は、国内の賃金構造や雇用の在り方にどのような影響を及ぼしているのでしょうか。しばしば、貿易自由化は所得格差を拡大させ、二極化を推し進めるなどと議論されることがあります。また、自国企業による海外進出は、国内における産業空洞化を招いて失業を増加させるといった懸念が表明されることもあります。</p> <p>本講義では、国際経済学の基本的な分析枠組みを紹介しながら、上記のようなグローバル化と賃金・雇用構造に関わる問題がどのように取り扱われてきたのか、経済学がこうした問題について何をどのように解明してきたのかについてお話しします。短い時間ではありますが、おおむね以下のような論点を取り上げます。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 国際経済取引の現状 (2) グローバリゼーションの光と影 (3) グローバリゼーションと賃金・雇用への懸念 (4) 貿易自由化は人々の暮らしを豊かにするか？(「比較優位」と「貿易利益」の基礎) (5) 貿易自由化は格差を生むか？(「生産」と「所得分配」の基礎) (6) 熟練・非熟練労働と賃金格差(中間層減少と「二極化」) (7) 直接投資・産業空洞化と雇用減少 (8) オフショア・アウトソーシングと賃金格差 (9) 外国人労働受け入れに関わる経済的問題 					
<p>講師からのメッセージ</p> <p>経済学は、それ自体が「答え」を示すものというよりも、むしろ「答え」を導き出すための首尾一貫した「方法」を提供するものです。「経済学的に考える」とはどのようなことなのかを理解していただければと思います。</p>					